

はじめてのチャリティーコンサート

岡山中山支部 本郷 勉

令和六年二月四日、中山先生よりお声掛けをいただき、初めてチャリティーコンサートに参加させていただきました。今回のテーマは構成吟『天を敬い人を愛す 西郷隆盛』です。私の出場する場面は歌の部分で、一番が歌い、二番からは参加者全員で大合唱して終わると言う構成でした。

岡山県生涯学習センターで、合計四回の合同練習があったのですが、一回目の練習はどうしても都合がつかず、二回目からの参加となりました。皆様、実

力者の方々ばかりで間近で聞かせていただきますと、力強く壮大で西郷隆盛の偉大さも伝わってくるようで、大変感動しました。私ももつと練習し、皆様に迷惑のかわらないようにという思いがますます強くなってきました。マイクの使い方や受け渡し、そして立ち位置等の指示を受けました。最後の練習は、本番を行う会場の西川アイプラザ大ホールで同様の練習、また最後の整列を再確認しました。

本番当日、女性の皆さんは着物、私も着流しということ、少し早めに会場に行き、着付けをしてもらいました。やはり着物姿は華やかでとても良かった



です。徐々に緊張が高まります。私は最初の音がとりにくい面があるので、外さないよう、直前まで常に音をとっていました。いよいよ私の出番です。舞台上に立ち伴奏が始まり、歌い始めましたが、次の歌詞が消えてしまい、頭が真っ白になりました。「あっ」と思いましたが、念のためにと歌詞カードを持っていったので、何とか最後まで歌い終え、その後も全員で大合唱して無事終えることができました。それまで順調に行っていた今回の構成ですが、私が思わぬミスをしてしまい、皆様には大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。



白さぎ吟詠の集い 競吟大会に参加して

岡山総楽支部 岡田 正和



近年コンクールに出場する度に「声の伸びが悪くなった」「高音がしんどくなった」等の声の衰えに敏感になっていたところ、吟友からボイストレーニングなるものを聞き、トレーナーを紹介していただき、通勤時マイカーにて発声練習をしていました。このたびのコンクールには、その真価と決勝へ進出を目標に、吟題は慣れ親しんだ絶句と自分にとって表現しやすい律詩を選び出場しました。

当日は午前四時に起床し、喉を起こし、午前七時に岡山駅に集合し、貸切バスにて現地の会場に午前九時着の予定で出発しました。バスの道中役員の先生の先導で発声練習と各自順番にマイクを持ち、本日の吟題を独吟させていただきました。この発表練習がコンクール出場の際

の緊張や不安を取り除き、落ち着かせてくれました。そのため、会場での発声練習室には入らず、詩文を繰り返し復唱することを心がけました。

決勝では、水分を補給し、精神集中、すぐに順番が回ってきました。マイクの前へ進み顎の下にしっかりと位置取り、伴奏が流れる：しっかりと声が響いて聞こえるぞ。よし！気持ちが高揚し、最後の二行は、大きな吟詠を心がけて無事終えましたが、その分「うるさい吟詠になったかな」と感じました。席に戻る

と鷺照吟詠会の一団から「良かったよ」と、声掛けと拍手で迎えられほっとしました。 今後は自分にとって「何が不足しているのか」という問題意識を持ち、上手な吟、きれいな吟、唸り上げる吟だけでなく、詩の情景が目に浮かび、時に強く、時に切なく作者の意図する詩情をしっかりと語れるか等、凄



「第六十二回白さぎ吟詠の集い競吟大会」に参加して

岡山中山支部 河田 博行

を見事吟じ終えた瞬間、会場に声にならないどよめきが聞こえた。

第一会場での伴奏責任者。これが大会係員としての小生の役割だった。セットした本数と曲番を確認し、出吟者の準備完了を見計らってコンダクターの前奏曲やプレイヤーの演奏開始ボタンを押す。吟詠が終わるとタミミング良く停止ボタンを押す。一見単純な作業に思われるが、責任重大で、神経が磨り減るような役だ。用意されている二台の機器も、初めての操作ではボタン配列や機能に慣れるまでが大変である。鷺照吟詠会では四年前から伴奏曲をデジタルデータとしてパソコンに取り込み、ワンクリックで演奏しているのに：などと思いつつも、他の三人の係員と交代しながら役割を黙々とこなしていく。……そして、いよいよ最上級の部決勝吟詠を迎えた。

今大会では、最上級の部決勝吟詠に残った六人中三名が鷺照吟詠会のメンバーという快挙！

「三番岡田さん」。司会の案内に登場した吟者の準備完了のタミミングに合わせて（頑張れ、岡田！）と念じつつ、多少震える指先でボタンを押す。（律詩を五本で吟じ通すのか？…素晴らしい！気迫がピンピン伝わってくる！）『獄中作（頼鴨厓）』

「五番鈴木さん」。（頑張れ、鈴木さん！）伴奏スタート。これも鈴木さんらしい気合いのこもった力強い『大楠公』だった。そして、最後の吟者。「六番内座さん」のアナウンス。（頑張れ内座さん！）伴奏開始！（この半年くらいで透明感のある伸びやかで美しい声に力強さ・太さ

一位から三位までを鷺照吟詠会が独占するのでは？と審査結果発表を待つ。そして結果発表。

優 勝…岡田 正和
準優勝…内座 由紀葉
第四位…鈴木 一子
入 賞…剣持 和江

最上級の部だけでなく、女子合吟チームの優勝をはじめ、三段の部、上級の部、傘寿の部Ⅱでも見事な成績をおさめられ、鷺照吟詠会ここにあり！を示す記念すべき大会となった。出吟者全員の皆様に改めて感謝と敬意を表したい。

（成績詳細は別掲記事に）



岡山県連合会 競吟大会・吟詠研修会報告

岡山県連合会事務局 石田 隆

令和五年度の関西吟詩文化協会岡山県連合会の競吟大会並びに岡山地区吟詠研修会を八月二十日に岡山県天神山文化プラザホールにて開催しました。新型コロナウイルスの状況も若干取まり、過去三年間に比べて少し対策も緩めつつ行った大会及び研修会でした。

競吟大会には五十五名の参加がありました。昨年度からシニアの部（八〇歳以上）を加え実施しています。今年シニアの部にはI部II部合わせて一〇名の参加でしたが、八〇才以上の方も是非積極的に競吟大会にご参加していただきたいと思えます。

各部ごとの参加者数は後述の通りです。特に最上級の部には十七名と多くの参加がありました。それだけレベルの高い大会とはなりませんが、若い方や経験年数の浅い方の参加がもつと増えればなあと思います。

各部ごとの参加者

- 新人の部………一名
- 初級の部………七名
- 上級の部………九名
- 師範代の部………四名
- 準師範の部………五名
- 和歌の部………六名
- シニアI部………五名

吟詠実技研修では、例年のように、会員を対象にどうすれば吟が上達するか、個人個人の吟に合わせて丁寧にご指導いただきました。先生の言われることは分かるのですが、自分でやろうとするとなかなかできないという経験はみなさんあると思います。今回の吟詠指導では、本当に丁寧に細かい点まで教えていただき、指導いただいた方にはとても素晴らしい機会になったのではないかと思います。

最後に本部講師吟詠としてお二人の先生方に範吟をいただき、研修会を締めくくっていただきました。素晴らしい吟に触

- シニアII部………五名
- 吟士権の部………十七名



私は詩吟を始めて一年になります。本来なら新人の部ですが、この度は参加者が少ないので初級の部に出場させていただきました。

詩吟を始めた当初の目的は「老化防止」。コロナで自粛し、母の介護をして見送り、ふと気づくと自分の老化現象に愕然として将来に危機感さえ感じるようになっていました。新しい趣味を始める事、老後はできるだけ趣味をたくさん持つ事が認知症の予防になるとのこと。私は幼少よりピアノを習い、高校は音楽科、大学も音大でした。歌うこと、カラオケも大好きですが、高音域で裏声になってしまふのが悩みでした。高音も地声でしっかり出せるようにYouTubeを見てボイストレーニングをやってみたりしていたと



【栄えある優勝者 喜びの声】
初級の部 優勝
岡山総楽支部 新谷 益代

令和五年八月二十日、岡山県連合会競吟大会・上級の部にて優勝させていただきました。上級の部では、今期最終出吟となりますので、その区切りに名譽



上級の部 優勝
岡山中山支部 佐藤 昌子

ころ、詩吟は裏声禁止、地声で歌うと聞き「これだ!」と思いました。

さっそく近くの公民館講座を探して参加しました。鷺照吟詠会の集いにも参加させていただき、昇段試験や競吟大会があるので練習の励みになります。このような機会を提供して下さる事に心より感謝しております。またご指導下さる諸先生方、教室の諸先輩方に感謝の意を表しまして、喜びの声と代えさせていただきます。これからも詩吟を楽しませていただき若返りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

れることで、自分の吟を見直し、また練習に励みたいと思うと同時に、この素晴らしい吟詠という文化をより多くの皆様に伝えたいという思いを強くしました。

競吟大会に向けて練習を重ねてこられた皆様には、今後ますますのご精進・ご活躍をお祈りいたします。本年度の開催にあたって、多くの理事・役員の方に様々なところで献身的にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

ある賞をいただけただけなのは、この上ない喜びです。吟題は『秦淮に泊す』です。

この吟題を選んだ理由は、NHK FMラジオ『邦楽のひととき』で耳にしたからです。ラジオから流れる吟は、力強くありながら憂いを帯び情景が浮かび上がってくるのです。素敵だなどと思い、自分で軽く吟じてみると、自然にスーッと入ってきたので、嬉しくなって選びました。吟法も関西吟詩と似ていましたので、違和感なく耳に入ってきたのかも知れません。ただこの詩は叙景詩ですし、厄介な吟法が多いので、競吟向きではなかったようです。私の吟力では無理な吟です。ラジオから流れていたのは少壮吟士の大山宗鵬先生でした。心地よく響いてきたのは当たり前です。でも何とか吟じてみたくて一生懸命練習しました。

その甲斐あってか優勝させていただくことができ、ご褒美に本部からお越しの今井彩黎先生から吟詠研修会での指導をいただきました。吟士権を獲得され、愛連など数々の賞を獲得されてきている懂れの先生です。一言も聞き逃すまいと緊張しましたが、先生はとても優しく明るくて、ココロココロって笑われます。こんなに可愛くて笑い上戸の方だったんだ！と嬉しく

なって、私もつられて笑ってしまいました。知らない間に緊張もどこかに飛んでいました。最後の独吟は楽しく吟じることができました。今井彩黎先生、ありがとうございます。いつもご熱心にご指導くださる先生方に感謝申し上げます。これからもおおいっそう精進して参ります。

師範代の部 優勝

岡山梢雲支部 虫明 隆二



この度は岡山県連合会競吟大会・師範代の部優勝という栄誉を授かりこの上ない喜びです。

来年から準師範に昇格するに当たり、師範代として最後の大会となるため、できることなら有終の美を飾りたい、そう願っていました。如何に感情を込めていくか、気持ちの良い声が出るかを見つめながら練習して来ました。まずは、発声を楽に出せるようするにはどうしたら

良いか、当然に肺活量の問題もあります。内臓脂肪が最近増えているので少しでも減らせるようにウォーキングを行いました。腰を捻りながら大腿で歩くことでお腹周りの内臓脂肪を減らすことを目標として、毎日約八キロメートル歩いてきました。その御蔭で呼吸が楽になり、発声も長く続くようになってきました。

また、声がかすれるほどの高音の音を長く続けることで高音に余裕が生まれてきました。本当ならもっと初期の頃にこういった練習に気がつけばよかったのですが、基礎の部分の強化をやつと始めたというところでした。

感情を込めるには何度も素読を行い、作者の気持ちになってみることで。そして、言葉を丁寧に発音して聞き取りやすい発音を心がけるように練習してみました。その結果、昨年よりは良い吟になったのではないかと思います。皆様にあつては安定した声を長く続けるいわゆるロングトーンを練習に取り入れたい、また良い吟の一助になるのではないかと考えます。皆様と一緒に楽しく吟詠が出来ますよう念願いたします。

準師範の部 優勝

一歩、歩高くして光景開く
岡山江陽支部 川根 幾恵



『太田道灌』、一昨年練習を始めた吟だ。優勝できた満足感もありながら、録音を聞いてみると少々がっかりする。「自分はこんな風に吟じていたんだ。自分の頭の中で吟じていたもの少し違うな」という感覚。でも、一昨年の録音を聞いてみると、発声や音の抑え方などずいぶん違っている。今までいろいろな先生方から発声、音、丁寧さ、安定感、そして表現の指導を受けてきてはいるのだ。考えてみると、「詩吟」についての理解や向き合い方も変わった。以前の自分分は「自分の吟が相手にどう届いているか」はあまり意識していなかった。

詩吟は基本の音がとてもシンブルなだけに、表現の自由度が高い。その分深いといえると思

う。声の質、言葉の言い方、聞の取り方、音の伸ばし方、揺り方、止め方、様々な要因で、同じ詩が全く異なる景色になる。まさに十人十色である。美しい吟、素朴な吟、感動する吟、圧倒される吟、どれも魅力的だ。いろいろな吟を聞いて、うらやましく思うことも多い。

また、詩の理解の深さや、吟者の経験や感性によっても変わる。人の吟を聞いて自分の思い込みに気づいたり、先生方に指摘をいただいて、目から鱗が落ちる感じがしたりということもしばしばである。過去の録音を聞いて、その時指摘を受けたことが、今ならもっと理解できることもある。

一つ理解でき、一つできるようになれば、さらにその先の景色が遥かに見える。まさに「一歩、歩を高くして光景開く」感がある。私はどんな吟を目指していけばいいのか。自分の好きな吟と、自分に合う吟は違うのかも知れない。いずれにしても、私は先生方や、支部の仲間、一緒に練習している方々など、私に関わってくださる方々の指導やアドバイス、影響をこれから素直に受け入れて練習していこうと思う。

来年、再来年の自分の吟がどうなっていくのか、楽しみにしている。先生方、みなさんこれからもよろしく願います。